

令和3年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	80	学校名	茨城県立石下紫峰高等学校						課程	全日制		学校長名	佐藤 真			
教頭名	上田 智之										事務（室）長名	吉田 徹也				
教職員数	教諭	30	養護教諭	1	常勤講師	6	非常勤講師	20	実習教諭、実習講師、実習助手	1	事務職員	3	技術職員等	3	計	67
生徒数	小学科		1年		2年		3年		4年		合計		合計 クラス数			
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
	普通科		79	75	76	81	64	69			219	225	444			

2 目指す学校像

- 1 「心の教育」の充実に努め、人間としての在り方生き方の自覚を深め、豊かな人間性を育成する学校
- 2 心身ともに健全な活力ある人間の育成を目指し、自主的活動を推進する学校
- 3 多様な進路希望に対応し、一人一人が主体的な学習を通して自己の能力を伸ばし、自己実現を可能にする学校
- 4 実践的・体験的な学習を積極的に取り入れ、適切な勤労観・職業観を育成し、社会の一員として活躍できる人間を育成できる学校
- 5 保護者・地域社会との連携を深め、社会から信頼される開かれた学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	基礎学力の定着を図るための少人数・習熟度別授業は、おおむね効果を挙げている（70%を超える生徒及び保護者が学習内容・進度を適切と回答）。また、本校で設定している体験学習や約50講座の自由選択教科・科目についても、70%以上の生徒及び保護者が肯定的な回答をするなど、指導内容・方法とも一定の効果を挙げている。	今後も基礎学力の定着を図る取組を継続させ、ICT機器を効果的に利活用しながら生徒一人一人の確かな学力の保障を図る必要がある。また、キャリア教育の視点から、生徒の職業観・勤労観の育成や学ぶことと働くことがつながるような自由選択教科・科目の設定が挙げられる。
生徒指導	2人担任制によるきめ細かな指導、スクールカウンセラーとの連携・協力による生徒理解、保護者へのこまめな連絡により、家庭・学校・専門的知見に基づく指導が行えている。	今後も、家庭、スクールカウンセラー等との密な連携を図りながら、生徒の一人一人の自己指導能力を高める取組を実施していく必要がある。
進路指導	70%以上の生徒及び保護者が進路指導・面談に肯定的な回答をするなど、きめ細かな指導、ハローワークとの連携により、本年度も就職内定率100%が実現できた。	1・2年次の生徒の中に進路目標の設定が遅い生徒が多数見られる。生徒一人一人の意欲を高め、主体的に進路実現に向けて取り組む取組と生徒の進路希望の実現に向けたサポートのための工夫が挙げられる。
特別活動	コロナ禍において学校行事や特別活動の機会は減少したが、生徒が意欲的に取り組もうとする姿勢がみられており、生徒の自主的・実践的な態度を育成するうえで、体育的行事、文化的行事等の取組は、一定の成果を挙げている。ボランティア活動に参加する機会はほとんど無かった。また、生徒の成長や自己実現につながるよう「キャリア・パスポート」への取り組みをさらに充実させる必要がある。	生徒の自主的・実践的な態度を更に育成できるような取組の工夫や部活動の活性化が課題として挙げられる。また、「キャリア・サポート」への取り組みをさらに促進する必要がある。
働き方改革	勤務時間の超過は減少しつつあるものの、超過勤務時間が月45時間を超える教員が2割弱である。部活動の指導は、本校の定める部活動に係る活動方針に則り、適切な休業日・休養期間を設定している。	教職員の業務量の適切な管理に努め、超過勤務時間を削減する。

別紙様式1（高）

4 中期的目標

- 1 学ぶ意欲や基礎・基本の学力を育成するため、単位制を生かした、きめ細かでわかりやすく楽しい授業を展開する。
- 2 体験学習を充実させることにより、人と人とのふれあいを大事にし、社会性を育み、自律した行動ができるようにする。
- 3 個人面接や進路ガイダンスなどのきめ細かな個別指導・課外指導等を随時実施し、進路目標の実現を目指す。
- 4 ホームルーム活動や部活動などの集団活動を通して、心身の調和のとれた発達とコミュニケーション能力の育成を行う。
- 5 家庭や地域社会との連携を密にし、積極的な情報の公開に努め、地域に信頼される学校づくりを推進する。
- 6 より良いアクティブスクールに向けた取組を推進する。
- 7 教員の業務量の適切な管理に努め、超過勤務時間を抑える。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
基礎・基本の学力の養成	① 「ISベーシック」や各授業を通して、基礎学力の育成を行う。 ② ICT機器の活用など、多様な個性の生徒へのきめ細かな学習指導方法の工夫・改善を図る。 ③ 授業公開の積極的実践と相互研鑽を行い、授業展開の工夫等の教授法の改善に努める。
基本的生活習慣の確立と生活指導の充実	④ 生徒の日常の生活実態を把握し、家庭と連携して規則正しい生活リズムの確立を促し、基本的生活習慣の確立のための指導を充実する。 ⑤ 欠席、遅刻、早退を減らす。正しい服装・頭髪への指導を行う。交通安全指導を充実し、あいさつの励行を図る。 ⑥ いじめや問題行動等の未然防止と早期解決を図るための指導を行う。 ⑦ 好ましい人間関係づくりの指導・コミュニケーション能力の育成を行う。 ⑧ 規範意識の確立、道徳心の高揚、他者への思いやり醸成のための指導を行う。 ⑨ 個人面接等を充実して、生徒理解を深め、生活面で適切な指導を行う。 ⑩ 教員間での生徒の問題の共有と共通理解に基づく共通行動体制の確立を行う。 ⑪ スクールカウンセラーを積極的に活用し、学校と家庭との連携を図る。
進路指導の充実	⑫ 3年間を見通した計画的・系統的なキャリア教育を推進し、生徒一人一人の興味・関心・適性などに応じた「自分さがし」を援助する。 ⑬ 個人面接等を充実して、生徒理解を深め、長所や短所を把握し、進路面で適切なアドバイスを行う。 ⑭ インターンシップ等を積極的に推進し、望ましい勤労観・職業観を醸成する。また、学校見学、各種ガイダンス、検定試験、必要に応じた課外等を充実する。
特別活動の推進	⑮ 生徒が活力ある学校生活を送れるように、生徒会・部活動の活性化を学校全体で推進する。 ⑯ ホームルーム活動や部活動等の集団活動を通して、心身の発達と個性の伸張、コミュニケーション能力の育成や他者への思いやり涵養などの社会性を育成する。 ⑰ キャリア・パスポートを活用し、生徒の主体的に学びに向かう力を育み自己実現につなぐ
より良いアクティブスクールに向けた取組の推進	⑱ ISベーシックⅠ及びISキャリアスタディⅠからISキャリアスタディⅡ・Ⅲまでの系統的な指導体制を充実させる。 ⑲ アクティブスクールを、PDCAサイクルで見直し、より効果的な指導体制に向けた改善を実施する。
地域から信頼され評価される学校づくり	⑳ 文化祭等の学校行事への保護者や地域住民の参加を促し、地域へのボランティア活動や地域行事への参加を行うことにより、本校への理解と評価を高める。 ㉑ 近隣中学校や地域への広報活動を一層充実し、学校の特色及び活動を広く知ってもらうことで、学校への評価と信頼を高める。
働き方改革	㉒ 勤務時間の適正化に努めるとともに、行事、課外活動を含む業務の精選、適正化を進める。 ㉓ 校務のICT化や教材の共有等をさらに進め、業務の効率化を図る。

